

令和4年 11月18日 (金)

あさひの日だまり

NO.27

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～マラソン大会が行われました～

ボランティアの皆さん本当に感謝です



16日(水)にマラソン大会が行われました。前日の夕刻、校舎の周辺を走っている子どもの姿を見かけました。「荒神山を走っている子どもがいるですよ」ということをお話しして下さる方もいました。「頑張ったらマクドナルドへ連れて行ってもらえるんだよ」とニコニコ顔で話してくれる児童もいました。

そして当日、たくさんの保護者の皆様が校庭に来てくださいました。様子は見られませんが、沿道にも多くの保護者の方がおられた

に違いありません。そんな子供やご家族の皆さんの姿から、マラソン大会は、ご家族も含めて大きな行事の一つになっているということを知りました。

私は今回初めてマラソン大会を経験しました。実は私、正直に言うと、体育の授業の様子を参観してもらうのだろうくらいに考えていたのです。そして当日を迎え大会の様子を見て、思わず「えっ！」と声を出して驚いてしまいました。「こんなに盛大な行事だったのか!」「これは子どもたちにとっても一大行事に違いない」そう思いました。

当日はスタートの号砲を担当させてもらいました。もう、前のめりになってスタートを待つ児童。「先生車で迎えに来てよ」と話しかけてくれた児童。どの児童からもひしひしと緊張感が伝わってきます。「何とか楽しい気持ちを持ちながら走りぬいてほしいな」と思いながら声を掛けましたが、緊張している子どもたちには、なかなか伝わらなかったと思います。

既定の距離を走りぬいて校庭に帰ってくる子供たちの表情も様々でした。口を真一文字に結んで、しっかりと前を向き、自分と、そして記録と勝負している児童。手を振るとニコニコしながら、笑顔で前を走り抜けていく児童。足元をじっと見ながら、もくもくとひとりで走っていく児童。走り去った児童の背を見ながら、「何を思ってゴールを目指しているのかな」と思いました。早い子にも、ゆっくりな子にも、歩きそうになっている子にも、途中で具合が悪くなってしまった子にも「頑張った自分に拍手だよ!」心の中でそう声を掛けました。

早い児童は本当に早くてびっくりしました。男子女子関係なく、早い子は本当に早いです。すごいな～と感心しました。この児童たちは、きっとこの後も「走る」ことで心と体を成長させていくのだらうと思います。成果をあげていかれることを心から願っています。

ゴール近くで声援を送りましたが、疲れているだろうに声援に笑顔を返してくれる児童もいました。きっと自分に満足しながら走り抜けたのだらうと思います。

ゆっくりと校庭に走りこんで来た児童には「立派、立派」と声を掛けました。大変な思いをしても途中で投げ出さず最後まで走りぬいたことが本当に立派だと思います。

私は様々な児童の姿を見ながらこんなことを思いました。「子どもたちは一人ひとり色々な特技を持っている。ぜひその力を発揮できる機会を設けたい」

学校では行事の精選が行われることもあります。昔はあった行事がだんだんなくなっていくことがあります。写生会や水泳記録会。昔はそんな行事もあったように思います。そして、それぞれの行事ではそこで楽しい思いをする児童が行事ごとに違ってははずです。「授業時間の確保も大切ですが、児童が活躍できる機会をぜひ用意してあげたいですね」と先生方にもお話をしました。来年度以降も、できるだけ、児童が自分の力を発揮して楽しめる行事を計画していきたいと思っています。



～避難訓練がありました～

自分の体は自分で守る

14日(月)に避難訓練がありました。予告なしで警報が鳴り、自分でベストな避難方法を判断して行動する訓練でした。子どもたちは静かに放送を聴き、決められた場所にちゃんと避難しました。きっと、もし火事が起きても、先生や友だちの促しに従ってきちんと避難できるに違いないと思っています。ただ、どんなことが起きるかは予想ができません。想定を超えたことが起きたときにはじめて避難する力が問われます。

当日の訓練が終わった後、子どもたちにこんなお話をしました。目を通していただけたら幸いです。

いいですか、想像してみてください。

集会室に筆箱を忘れてしまったので取りに戻りました。南校舎の方を見ると給食室からもくもくと煙が出ています。普通の煙じゃありません。煙の中に炎も見えます。

もししたら先生たちもまだ気が付いていないのかもしれないかもしれません。放送の機械が火事で壊れてしまったのかもしれないかもしれません。「校庭へ逃げて下さい」という放送が流れません。

火事に気が付いていない友達が、2階や3階の廊下に見えます。いつも一緒に遊んでいる友だちが手を洗っているのが見えます。そこに立ったまま炎と煙をずっと見ていました。きっと本当にそうなったらすぐになんて体を動かさえないと思うんですよね。でも、ずっとそうしているわけにはいきませんよね。一人でそこにいる私はどうしたらよいのでしょうか？

(数名が手をあげてくれたり自分の思いをつぶやいてくれました)

急いで教室の方へ走って行って「火事だーと叫びますか？」もししたら信じてもらえなくて「えっ何言ってるの」ってなっちゃうかもしれませんね。もし、横に先生がいれば、「職員室へ行って伝えなさい。先生は児童のみんなに知らせてくる！」と言ってくれるかもしれません。でも今、私は一人でそこにいます。

最初に言いましたね。想像するんです。自分で考えるんです。

私は、こうすればよいという正解は無いのだろうと思っています。授業でも先生方はこの答えを教えてはくれないでしょう。ただ一つ言えることは、そういうことがあったその日、今日と同じように、ここにみんなが全員揃うこと。それだけは絶対に守りたい正しい答えです。そのためにどうすればよいか、自分を、友だちを助けるにはどうすればよいか。今日家に帰ったら、少しの時間でいいです。私ならどうするか考えてみて下さい。こういう状況ならこうよう、こういう状況ならこうよう。想像してみてください。今日はそういうことを真剣に考えてみる大切な日です。



地震体験車をお呼びして、地震体験を行いました。きっとこういう経験も、子どもたちの想像力を豊かにする大切な機会になっていると思います。